

校内研究だより 第4号

南関第三小学校
令和7年9月24日
研究主任：辻田

【研究主題】

相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【学校教育目標】

やさしく・しっかり考え・たくましい
「南関三小っ子」の育成

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

仮説① 書くことにおける基礎基本の定着を図り、単元構想や学習展開の工夫などを行えば、相手意識をもち、自ら考え、学び合う児童の育成ができるだろう。

9月10日（水）第5校時、藤本先生を講師に迎え、塩塚先生による4年生国語授業「ごんぎつね」（気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう）の研究授業が行われました。

1 教材名「ごんぎつね」（光村図書 4年生下）

2 授業後のグループ協議で出された意見より

＜良かった点＞

- ・国語科スタンダード（授業の始まり）が定着していた。
- ・児童が、「どうしてごんの気持ちが変化したのか」をしっかりと書き出していた。
- ・ショーウィンドウという成果物に意欲的だった。・振り返りまで書き出すことができていた。

＜課題・改善点＞

- ・導入に時間がかかった。めあては、予め書いておくといよい。
- ・叙述をもとに、気持ちの変化を書き出すことがやや足りなかった。
- ・グループで1つの考えにまとめてよかったのか。・電子黒板、お散歩タイムを活用していく。

4 全体討議

- 相手意識 →ショーウィンドウという成果物を図書室に置いて紹介するという目的で、意欲は高められている。
- ICT活用→発表ノート、パドレットなどを活用して、他者参照や、友達に聞きに行くことを活発にしている。

5 共通実践事項※R7年度、「学校化」を目指して取り組んでいきましょう！



○聞きたいと思わせる問い作り。（児童が主体的に、聞きに動く姿勢を作る。主体的なお散歩タイム！）

6 講師 藤本 裕衣先生より（詳しくは、当日配付されたレジュメをご覧ください。）

○各単元における指導事項の確認→授業構想へ

○必ず取り入れたい学習活動（教科書の「たいせつ」を参考）

（例）情景や場面の様子に着目、気持ちの変化、など

○相手意識をもった単元のゴール→学ぶ意欲が高まり、学びが深まる。

○「問い」の解決を手段として、重点指導事項の力を身に付ける。

○さらなる授業改善のために→自分の考えを広げたり、深めたりする場の確保が大切。
（相手の考えとの比較、同調、深化という視点。）



藤本 裕衣先生